

日本語の文における形式名詞

『こと、もの、の』の分析

(意味・構造からの一考察)

ファイナリチャ

0642013



マラナタ・キリスト教・大学

文学部・日本文学科

バンドン

2009

序論

日本語はインドネシア語にないさまざまな特徴を持っている。その一つは形式名詞である。富田(1991:6)は、形式名詞というのは格助詞の[が]が付いて文の主語になったり、[を]が付いて対象語になったり、名詞と文法的に同じ性質を持っています。しかし、その単語だけ独立して使われることはなく、常に、その前の単語について、前の単語にある意味を付け加えるとともに、その単語を名詞代する働きをしていますと言っている。また、富田(1991:6)は、形式名詞と呼ばれるものとして[こと]、[もの]、[とき]、[ところ]、[わけ]があると述べている。しかし、広田と高西(1987:80)は、[の]と言うのは、形式名詞と呼ばれることもできると述べている。

例

1. 私の趣味は写真を撮ることです。
2. 時間がたつのは早いものです。
3. 私はJohnが来るのを待った。

例1[こと]には、抽象的な名詞を作る用法である。例2にある[もの]の意味は、普遍的で一般真理である。次、例3の[の]は、具体的なことを表す意味を持つ。[こと]、[もの]、や[の]、と言う形式名詞がある場合において、交換できるため、日本語を勉強している外国人の学生にはその習得に困難なものの一つになっている。上記の理由に基づき、文における[こと]、[もの]、[の]の意味、それと併せて文構造も見てみることにする。

本論

I. こと

久野(1973:213)と麻野(1999:161)は、[こと]の意味は、[抽象的]であると述べている。その例として、次のものを挙げている。

例

1. 小説を書くことは難しいです。

この文にある[こと]は動詞[書く]の辞書形のあとに付き、具象名詞を抽象名詞に変えることを表している。

II. もの

里子(1998:594)は、[もの]の意味は、真理、一般的にいわれていること、本来の性質などについて、ある種の感慨をこめて述べるのに用いる。一般的な性質として述べ、訓戒とすることもある。その例として、次のものを挙げている。

例

2. (31) 赤ん坊は泣くものだ。(NBJ: 594)

この文にある[もの]は動詞[泣く]の辞書形のあとに付き、[普遍的一般的真理]を表している。

III. の

久野(1973:221)と牧野と筒井(1989:318)は、[の]の意味は、具体的なものを表すと述べている。その例として、次のものを挙げている。

例

3. (54) 公園で和子さんが走っているのが見えます。(NBH: 178)

この文にある[の]は動詞[走っている]の辞書形のあとに付き、動作を見たり聞いたりすると言う意味の動詞(知覚動詞)を表している。

結論

1. こと

- 意味: 話し手自身の事実・経験・習慣・思考・意見・意向・評価・

判断

- [こと] を使う場合: [A~ことを(に、etc.)~B]

B=話す、伝える、約束する、祈る、希望する、聞く、要求する、命じる、頼む、強制する。

2. もの

- 意味: 普遍的一般的真理・慣習・規則・思想・法則・傾向・基準・

常識

- [本来、昔、以前, ~の頃]とともに使うことも多い

3. の

- 意味: 具体的・個別的人や事物・話し手の個人的な主張・断定・

疑問・感情

- [の] を使う場合: [A~のを(に、etc.)~B]

B=待つ、手伝う、助ける、見送る見る、見えます、聞く、聞こえる、感じる。

DAFTAR ISI

LEMBAR PENGESAHAN	i
KATA PENGANTAR	ii
DAFTAR ISI	v
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	8
1.3 Tujuan Penelitian.....	8
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	9
1.5 Organisasi Penulisan.....	10
BAB II KAJIAN TEORI	
2.1 Sintaksis.....	12
2.1.2 Satuan Gramatikal	13
2.2 Semantik.....	17
2.2.1 Makna Gramatikal.....	19
2.3 <i>Hinshibunrui</i> (品詞分類).....	20
2.3.1 <i>Meishi</i> (名詞).....	21
2.3.2 <i>Keishikimeishi</i> (形式名詞).....	22
2.3.2.1 Macam-macam <i>keishikimeishi</i>	24
2.4 <i>Keishikimeishi koto</i> (形式名詞 こと).....	25
2.4.1 Klasifikasi こと (<i>koto</i>).....	27

2.5	<i>Keishikimeishi mono</i> (形式名詞 もの)	30
2.5.1	Klasifikasi もの (<i>mono</i>).....	32
2.6	<i>Keishikimeishi no</i> (形式名詞 の)	35
2.6.1	Klasifikasi の (<i>no</i>)	37
BAB III	ANALISIS 形式名詞 (<i>KOTO, MONO, NO</i>) PADA KALIMAT BAHASA JEPANG.....	40
3.1	こと.....	41
3.2	もの.....	48
3.3	の.....	55
BAB IV	KESIMPULAN.....	62
	SINOPSIS.....	vii
	DAFTAR PUSTAKA	xi
	LAMPIRAN.....	xiv
	RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	xxxvi